キクガシラコウモリ　*Rhinolophus ferrumequinum* (Schreber)

【選定理由】

全国的に分布が広く、県内でも比較的広い範囲で生息が認められているが、洞穴性コウモリである本種は冬眠や出産に使用できる適切な洞穴が必要であり、こうした洞穴の消滅や採餌場所の環境悪化によって個体群の維持が困難になっていると考えられる。

【形　態】

体重 17～35g、頭胴長 53～82mm、前腕長 52～65mm、尾長 28～45mm、脛骨長 24.5～26.2mm、後足長（爪を含む）11～15mm、耳介長 22.5～28.0mm、頭骨最大長 19.9～25.5mm。小翼手亜目の中では大型のコウモリであり、「菊の花」にみたてられた特異な形態の鼻葉をもつ。鼻葉の中央突起は低く、横から見ると先端が丸くなっている。骨口蓋後縁は滑らかな円弧状。歯式は I1/2,C1/1,P2/3,M3/3=32、脊柱式は C7+T12+L5+S5+Cd8～10=37～39（子安･織田, 2009 など）。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山市、春日井市、津島市、名古屋市、瀬戸市、長久手市、豊田市、幸田町、西尾市、設楽町、豊根村、東栄町、新城市、豊橋市、田原市（絶滅）（宮尾ほか, 1984；子安ほか, 2001；2016；子安・織田, 2009；野呂, 2015；寺西, 2016；子安, 2018）。

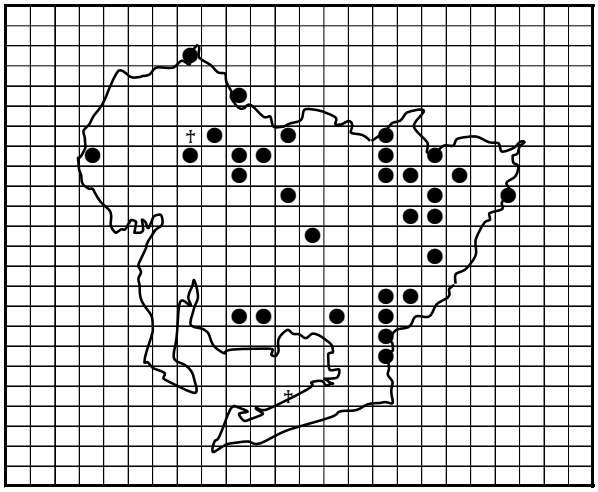
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、伊豆大島、三宅島、八丈島、新島、佐渡島、隠岐、対馬、壱岐、五島列島、屋久島、口之島、中之島（Sano, 2015）。

【世界の分布】

日本からアジア中南部をへてヨーロッパとアフリカ地中海沿岸（Sano, 2015）。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

昼間は海食洞、洞穴、トンネル、家屋などに数頭（時に 1 頭）から数百頭の群で休息する。冬期には冬眠洞の天井から懸垂して冬眠する。夜間に単独で飛翔しながら主として昆虫を捕食する。採餌場所は、森林や森林に隣接した小丘陵、河川、草原、平地など。採餌活動は夕暮れと夜明けで、真夜中に特定の休息場所で休息する。交尾は秋におこなわれるが、精子は雌の生殖道内に貯蔵され冬眠から覚めてから受精する。雌は特定の出産洞で出産集団を形成して初夏に 1 仔を生む（子安･織田, 2009 など）。

【現在の生息状況／減少の要因】

大面積伐採によって森林域の採食場所減少に加え、出産や冬眠に使用される洞穴の消滅や洞穴環境の悪化のため個体数が減少していると考えられる。また、体が大きいことから必要とされる食餌量も多量になり、餌となる昆虫が質量ともに良好に保たれねばならず、そのための森林を中心とした生物多様性が求められているが、開発や単一植栽によって生活環境の質が低下している。

【保全上の留意点】

洞穴性コウモリは 1 年の生活サイクルを通じて多種の洞穴（冬眠洞、出産・育仔洞、春と秋のねぐら洞）を利用する。こうした洞穴の破壊や環境悪化を防ぐように留意するとともに、特に出産・育仔洞や冬眠洞の周辺での開発に際しては森林伐採や河川周辺の環境変化による採餌環境の破壊を避けなければならない。また、本種の生息可能な洞穴は天然・人工を問わず、これを完全に閉鎖しないとともに、横棒を主体とした柵によってコウモリの出入りの確保に十分配慮する必要がある。

【特記事項】

名古屋市守山区では 2 地点での生息が確認されていたが、このうち竜泉寺の防空壕跡は土砂で埋まり利用されなくなった（野呂, 2015）。田原市田原町での生息については内藤（1983）が記述しているが、この石灰岩洞穴の生息地は開発により失われている。長久手市と豊田市（子安ほか, 2016；子安, 2018）では新たな生息地が確認されている。

【引用文献】

子安和弘, 2018. 人家から奥山まで生息する哺乳類. 新修豊田市史 別編 自然, pp.586-603. 豊田市, 豊田.
子安和弘･織田銑一, 2009. キクガシラコウモリ. ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸあいち 2009 動物編, p.86. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
子安和弘･小林秀司･大竹 勝, 2001. 愛知県の食虫類と翼手類. マンモ･ス特別号, (3): 19-34.
子安和弘･岡田慶範･小鹿登美･吉村文孝, 2016. 哺乳類. 豊田市生物調査報告書<分冊その 3>, pp.337-367.豊田市, 豊田.
宮尾嶽雄･花村 肇･高田靖司･酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
内藤和志, 1983. 三遠の洞穴. 地底の音, pp.22-35. 三遠洞くつ研究会, 松本.
Sano, A. 2015. *Rhinolophus ferrumequinum* (Schreber, 1774). The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.58-60. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
寺西敏夫, 2016. 愛知県におけるコウモリ相と生息実態. NPO 法人東洋蝙蝠研究所 2016 年度研究会抄録（自刊）.
野呂達哉, 2015. ｷｸｶﾞｼﾗｺｳﾓﾘ. ﾚｯﾄﾞﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸなごや 2015 動物編, p.35. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋.

（子安和弘・織田銑一）